

エチオピア高地で行なったゲラダヒヒの野外調査での資料をもとにヒヒ類の比較社会学的研究を行なっている。

10) 霊長類の生殖期と適応に関する研究

河合雅雄

霊長類の生殖行動（交尾と出産）の季節性について、環境要因との関連を総合的に検討し適応の問題を考察した。

総 説

- 1) 河合雅雄 (1978) : 性の進化的意義とヒト化の問題。生物科学, 30, 1-2.
- 2) 河合雅雄 ((1977) : 霊長類の行動特性と人類進化。創造の世界, 24.
- 3) 東 滋 (1977) : サルの世界 (1)~(5). 地理, 31, 32.
- 4) 鈴木 晃 (1977) : 雑食化への道—野生 チンパンジーの生態。pp 243, 玉川選書 53, 玉川大学出版部。

論 文

- 1) 河合雅雄 (1977) : アヌビスヒヒとマントヒヒの種間雑種化に関する社会過程。昭和50年度海外学術調査報告書, 21-25.
- 2) 鈴木 晃 (1978) : 霊長類の社会構造における性。生物科学, 30, 29-34.
- 3) 森明雄, 森梅代, 岩本俊孝 (1977) : 幸島の野生ニホンザルの群れにおけるメスの間の順位変動について。形質・進化・霊長類, 今西銘司博士古稀記念論文集 (加藤泰安, 中尾佐助, 梅棹忠夫編) pp311-334, 中央公論社。
- 4) 森 梅代 (1977) : ゲラダヒヒの社会構造。昭和50年度海外学術調査報告書, 75-80.

学 会 発 表

- 1) The variation and adaptation of social groups of chimpanzees and Abyssinian colobus monkeys in Uganda and Tanzania. Akira Suzuki Burg Wartenstein Symposium No. 75, "Ecological Influences on Social Organization: Evolution and Adaptation" (1977).
- 2) スマトラにおける *Presbytis melalophos* の社会生活 川村俊蔵 第22回プリマーテス研究会 (1978)

変異研究部門

野澤 謙・和田一雄
庄武孝義・峰澤 満

研 究 活 動

1) ニホンザルの集団遺伝学的研究

野澤 謙・庄武孝義

ニホンザルの血液蛋白の構造を支配する遺伝子の変異を電気泳動法によって検索し、群内、群間の変異性を定量化する。昨年度までにニホンザル約40群、総個体数約1,800頭の血液試料について、27種の蛋白の構造を支配する計30遺伝子座の検索をおこなった。このデータをもとにして、統計的検討を加え、繁殖単位間の毎代の移出入率、遺伝的変異の散布範囲などについて定量的推定をおこない、ニホンザルの繁殖構造を解明すべく作業を続行中である。これまでの結果をプリマーテス研究会にて発表した。

2) Macaca 属サルの系統的相互関係

野澤 謙・庄武孝義

ニホンザルを含む Macaca 属サル各種から採血をおこない、上記 1) と同一の方法によって種内、種間の遺伝的変異性を定量化し、それら種間の遺伝子構成上の差を遺伝距離で表現し、それに数量分類学的手法を適用して枝分れ図を描く。それにより種間の近縁関係、分化時間の推定等をおこなう作業を目下続行中である。今年度は新たにアッサムモンキーの資料を入手し、これとアカゲザル、ボンネットモンキーとの関係を調査し、プリマーテス研究会にて発表した。

3) ニホンザルの先天的四肢奇型への遺伝学的アプローチ

野澤 謙・庄武孝義

ニホンザルの数多くの餌付け群に多発する先天的四肢奇型が遺伝的支配を受けているか否かを明らかにすべく研究が続行されている。集団の奇型出現の家族集積性のデータから統計遺伝学的手法を用いて遺伝率の推定をおこなう他、淡路島野猿公園の協力を得て、交配実験をおこなっている。さらに今年度はモンキーセンターとの共同研究として、宮島から奇形サルを入れ本研究所で交配実験を開始した。

4) 家畜化現象と家畜系統史の研究

野澤 謙・庄武孝義

在来諸家畜とそれらの野生原種の遺伝学的野外調査によって、家畜化現象そのものの集団遺伝学的解明と、個々の家畜種内で地域集団間の遺伝的分化の程度、系統的相互関係の解明をおこないつつある。

5) ヒヒ類の種分化に関する遺伝学的研究

庄武孝義・野澤 謙

1975年度の調査に続いて 1977 年度にゲラダヒヒとアヌビスヒヒの調査をおこなう予定であったが、現地の政情不安定のため延期になった。1978年度から1979年度に

かけて研究所特別事業費により、ゲラダヒヒを中心に調査をおこなう予定である。上記 1), 2) と同じ手法を用いてヒヒ類の種分化の問題に遺伝学的にアプローチしようとしている。

6) オナガザル科 3 属に見られる属間遺伝的変異に関する研究

川本 芳¹⁾・庄武孝義・野澤 謙

1), 2), 5) で用いた材料に加えて 1975 年度学術調査の際に入手したエチオピア産グリベットモンキーを加え、オナガザル科の代表的な 3 属, *Macaca* 属, *Papio* 属, *Cercopithecus* 属の遺伝的変異を定量し属間比較をおこなった。結果を遺伝学会にて発表した。

7) ネパールにおけるヒマラヤンラングール, アカゲザル, アッサムモンキーの生物地理学的研究

和田 一雄

1977 年度は 3 種が混在する地域における食性, 個体数, 同一地域での 3 種の土地利用に焦点を合わせて観察した。

8) 志賀高原雑魚川, 魚野川におけるニホンザルの生態調査

和田 一雄

両流域における群れ数, 群れの大きさ, 食性を調査した。

総 説

1) 庄武孝義(1978): : 霊長類の遺伝的分化。科学, 48: 240-246.

論 文

- 1) Shotake, T., K. Nozawa and Y. Tanabe (1977): Blood protein variations in baboons. I. Gene exchange and genetic distance between *Papio anubis*, *Papio hamadryas* and their hybrid. *Jap. J. Genetics*, 52: 223-237.
- 2) Shotake, T., Y. Ohkura and G. Ishimoto (1977): Genetic polymorphism of blood proteins in the troops of Japanese macaques, *Macaca fuscata*: V. Erythrocyte phosphohexose isomerase polymorphism. *Primates*, 18: 285-290.
- 3) Shotake, T., Y. Ohkura and K. Nozawa (1977): Genetic polymorphisms of blood proteins in the troops of Japanese macaques, *Macaca fuscata*: VI. Serum transferrin polymorphism. *Primates*, 18: 291-287.
- 4) Tanabe, Y., H. Tanase, T. Omi, T. Shotake and K. Nozawa (1977): Further studies on polymorphism of thyroxine-binding prealbumin (TB-

1) 大学院学生

PA) in primate species. *Jap. J. Genetics*, 52: 319-322.

- 5) Abe, H., Y. Hasegawa and K. Wada (1977): A note on the air-sac of Ribbon seal. *Sci. Rep. Wales Res. Inst.* 29: 129-135.

報 告・その他

- 1) 和田一雄 (1977): ニホンザルの年令をよむ。モンキー, 156, 20-23.
- 2) 伊藤徹魯, 加藤秀弘, 和田一雄, 島崎健二, 荒井一利 (1977): 北海道におけるトドの生態調査報告(I) (II). 魚京研通信, 305, 1-8, 306, 9-18.

学 会 発 表

- 1) オナガザル科 3 属に見られる属間遺伝的変異
川本 芳, 庄武孝義, 大倉よし子, 野澤 謙, 田名部雄一

第49回日本遺伝学会(1977).

- 2) 蛋白質多型の保有機構, ニホンザルの場合

野澤 謙

第49回日本遺伝学会シンポジウム(1977)

- 3) 電気泳動的に識別可能な霊長類のヘモグロビン α 鎖, β 鎖変異

川本 芳・竹中 修

庄武 孝義・野澤 謙

第22回プリマーテス研究会(1978)

- 4) 血液蛋白質の変異からみた *Macaca assamensis*, *M. radiata* そして *M. mulatta* の種間関係

庄武孝義・川本 芳・小寺重孝

谷岡功邦・野澤 謙

第22回プリマーテス研究会(1978)

- 5) ニホンザルの集団構造

野澤 謙・川本 芳・庄武孝義

第22回プリマーテス研究会(1978)

生活史研究部門

杉山幸丸・田中二郎

小山直樹・大澤秀行

研 究 概 要

- 1) ニホンザルの個体群生態学

杉山幸丸・小山直樹・大澤秀行

本部門創設以来, 中心課題の一つとしてこの問題に取り組んできた。超大型餌付群の高崎山では量的取扱いとサンプル追跡により, 四半世紀に及ぶ継続全個体識別下の嵐山餌付群では精密な全個体の履歴把握を, 1973年夏をもって餌付けを放棄した霊仙山の 2 群では餌付け下と